



カニこぶ

Gall formed by crab in coral

写真はサンゴヤドリカニというカニで、ハナヤサイサンゴ科のサンゴの枝の先端に、手のひらを合わせたような形のこぶを作る（写真左上）。このカニが最初に報告されたのは150年ほど前の1800年台半ばのことで、サンゴの形を変化させて自分の隠れ家を作るという特異な生態から、これまでにたびたび研究されてきた。しかし、さんご礁で数多く潜ったダイバーでも、サンゴヤドリカニの姿を見た人は、ほとんどいないだろう。このことは、サンゴに棲むカニの狙いである「外敵から身を隠す」ことが、見事にうまくいっていることを証明している。実際のカニの姿は、ずんぐりむっくりのだるまさんで、見ようによっては愛らしい。こぶのでき方や繁殖方法などについての報告があるが、宿主との関係については、未だ研究の余地が残されているようだ。カニにとっては身を隠すという利点があるが、サンゴは単なる隠れ家の提供者なのだろうか。

採集・撮影：岩尾研二
観察・採集日：2009年9月12日
場所：阿嘉島マジャノハマ

編集後記

編集 岩尾研二（研究員）

今年2010年が、国際生物多様性年であることをご存知でしょうか。これは、国連の定めたもので、簡単に言うと、生物の多様性を守り、持続的な利用を図り、生じた利益を公正に分配するために、生物多様性条約を良く知ってもらおう年のようです。そして、その条約の第10回会議（COP10）が今年の10月に日本（名古屋）で開かれることになっています。「生物多様性」や「持続的利用」というのは、もちろんさんご礁にとっても重要なキーワードですから、私達も条約やその意義にもっと注意を払っていきたいと思います。さんご礁は、多様な生物の集まる場ですが、その研究分野も実に多様です。今号の「みどりいし」にもさまざまな分野の記事が集まりました。いずれも阿嘉島臨海研究所が多少なりとも関係しているもので、研究所の活動の幅広さをあらためて感じます。小さな研究所ですが、国際的な動向にも常に関心をもちつつ、これからも目の前の海から未来を考えていきたいと思っています。



発行人
ESTABLISHMENT OF TROPICAL MARINE ECOLOGICAL RESEARCH

財団法人熱帯海洋生態研究振興財団

〒141-0031 東京都品川区西五反田1-26-2 五反田サンハイツ614号 TEL. 03-3490-7266 FAX. 03-3490-8278

AKAJIMA MARINE SCIENCE LABORATORY

阿嘉島臨海研究所

〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179 TEL. 098-987-2304 FAX. 098-987-2875

E-mail: amsl@oki-zamami.jp Homepage URL: <http://www.amsl.or.jp>